

すばらしかった運動会 ～行事を通して成長できましたか～

運動会が終わって1週間が過ぎようとしています。みなさん、お疲れさまでした。接戦あり、逆転あり、リードされてもあきらめない粘り強さありと、見ごたえのある競技ばかりで、時間のたつのを忘れるほどでした。ご来賓をはじめ、多くの方からお褒めの言葉をいただいています。

今年は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年とは違った時期に、半日に短縮しての開催となりました。種目数も例年の半分ほどに縮小せざるを得ませんでした。内容は『縮小』ではなく、弓削中生のすばらしいところがグッと詰めこまれた『凝縮』だと感じました。



運動会を通して成長したことは何ですか？

運動会では、「勝ち」「負け」や「順位」が決まる場面が多く見られます。もちろん「勝つこと」「優勝すること」を目標に、力を合わせて練習したり、知恵を出し合ったりすることは大切なことです。しかし、それが一時的なもの、「運動会限り」で終わってしまったのでは何にもなりません。もっと大切なことは「運動会に向けて」の努力や取組が、「運動会が終わっても」続いていくことだと思うのです。つまり、運動会後の学級や学校での日常生活が、運動会前よりも向上していかなければならないということです。



学級で仲間と助け合う場面が増える、委員や係の仕事への責任感が増す、移動や集合が早くなる、先輩後輩のよい結びつきが強くなるなど、日頃の生活態度の成長につながってこそ、成果が得られたと言えるのではないのでしょうか。



ろうそくの炎(左の写真)は暗いところで光を放ち、まわりを明るく照らします。しかし、ただろうそくがあるだけでは、明るくはなりません。炎が輝きを放つには、「ろう」が必要です。空気中の「酸素」も必要です。「ろうそく立て」もあるといいですね。炎が暗闇を照らすことができるのも、こうした支えがあってこそなのです。

運動会でスタートラインに立ったとき、皆さんには何が見えていましたか。スタートやコースを示すライン、ピストルを鳴らす演技係、生徒席で声援を送る仲間、ゴールテープや等旗を持つ決勝・審判係、次の種目の用具を運びセットしようとして待ちかまえる準備係、コロナウイルス対策のための受付や、駐車場の誘導をしてくださったPTAのみなさん。事情で競技には出られないけれど、放送係を引き受けてくれた人もいました。皆さんが出場する競技の舞台を支えてくれている多くの人の存在に気がついたのでしょうか。競技をする者の頑張りや、それを支える係の人たちの目立たないところでの活躍があって、運動会が成り立っていることにも心を寄せてほしいと思います。それができることも、成長と言えるのではないのでしょうか。

